



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	成瀬は天下を取りに行く
著者名	宮島未奈
出版社名	新潮社
推薦書評 コメント (50字～200字)	ちょっと変わっているけど、自分の考えをしっかり持っていてまっすぐな女子高生「成瀬あかり」が、生きづらい時代を“自分の言葉”で切り拓く姿をみせてくれます。進路や人間関係に悩む大学生にも大きなヒントや勇気を与えてくれるでしょう。
所在	7F開架閲覧室
請求記号	913.6/Mi75
資料ID	14064389



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
著者名	ブレイディみかこ[著]
出版社名	新潮社□
推薦書評 コメント (50字～200字)	『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』は、親子が共に向き合い、悩み、成長していく姿を描いていますが、単なるエピソードではなく、子どもの視点から大人たちの凝り固まった常識を批判的に捉え社会の様々な問題に光を当てています。生きるうえで本当に大切なことを教えてくれます。続編2も出ています。  続編2 所蔵あり 所在：5F開架ポピュラーライブラリー 請求記号：BK 資料ID：14172173
所在	6F開架閲覧室／自動書庫
請求記号	376.333/B71
資料ID	04485599 ほかに全2冊あり



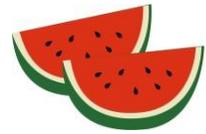
## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	ストレス対処力SOCの専門家が教える“折れない心”をつくる3つの方法
著者名	蛸名玲子
出版社名	大和出版
推薦書評 コメント (50字～200字)	ストレスに対処する上で大切な力にSOCがあります。これは「社会適応力」つまり「周りの人や状況とうまく付き合っていく力」です。困難な状況に直面した時に、周りの人に助けを求められる、ストレスの原因を分析し、解決策を見つけることができる、自分の気持ちをコントロールし、冷静に対応できる、といったことは自立した社会人になるためにとても重要な力と言えます。本書では欧米で大注目の概念を日常で使いやすいように優しく解説しています。折れない心を身につけたい！と思う人はぜひ手にとって、SOCを高める方法を学びましょう。
所在	7F開架閲覧室
請求記号	498.39/E15
資料ID	14145540



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	病気の子どもの心理社会的支援入門 第2版 —医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ 人に
著者名	谷川弘治・駒松仁子・松浦和代・夏路瑞穂 [編]
出版社名	ナカニシヤ出版
推薦書評 コメント (50字～200字)	保育士・心理専門職・メディカル・ソーシャルワーカー(MSW)・ 教師などの専門職として働きたい方へ！病気の子どもの理解と 支援について深めることができます。
所在	7F開架閲覧室
請求記号	493.93/B99
資料ID	03300153



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	すぐやる脳
著者名	菅原道仁
出版社名	サンマーク出版
推薦書評 コメント (50字～200字)	やらなきゃいけないのに今日もできなかった…。そんな反省を繰り返す自分に送りたい本。何でそうなるのかかわかりません。自分が変わるきっかけになる本かもしれません。
所在	7F開架閲覧室
請求記号	498.39/Su28
資料ID	04814983



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	私は十五歳 (a sailing boat book)
著者名	アズ・ブローマ[原案]／なるかわしんご[絵]
出版社名	イマジネーション・プラス
推薦書評 コメント (50字～200字)	難民申請をしているのに認められず母国に強制退去を求められている人のうち、健康上、人道上等の理由から、収容を解除され、何年も「仮放免」となっている外国人がいます。この本は、「仮放免」を受けている子どもの作文を、それらの外国人を支援する弁護士らの監修で絵本にしたものです。アズ・ブローマという著者の名前は本名ではなく、「私はここにいる」という意味だそうです。医療保険に入れず、働くこともできず、県外に出られない「仮放免」の状態。子どもは義務教育を終えても高校に進学できません。2人の弁護士による解説文付き。人権について学ぶのに最適です。
所在	5F開架こども図書館
請求記号	E
資料ID	14144870



## 読んでほしい「夏休み 推薦図書」



学科名	心理・福祉学部 社会福祉学科
書名	犯罪被害と「回復」—求められる支援
著者名	伊藤富士江
出版社名	現代人文社
推薦書評 コメント (50字～200字)	犯罪被害者支援の研究者である伊藤富士江氏が犯罪被害にあった人にインタビューをして、被害からの「回復」とは何かを考えた本。犯罪被害者の方の語りが豊富に収められている貴重な本です。第1章には犯罪被害に関する制度や施策の経過がコンパクトに記されており、卒論や授業で犯罪被害者支援について調べている方の役に立ちそう。第5章には警察、弁護士、精神科医、ソーシャルワーカーなどの立場からよりよい支援についてコメントが書かれており、私(横井)もそこにスクールソーシャルワーカーの立場からコメントを書いています。
所在	6F開架閲覧室
請求記号	326.3/189
資料ID	14145478